

七月二十九日付けの記事を読んだ感想

高岡市立高陵中学校 三年

西保 未由希

「あの日の空」とやま戦後七十年戦中編」
を読んで、私は、富山県の戦時中の空襲につ
いての出来事と初めて知りました。
記事では、昭和二十年の空襲に怯える市民
の様子と、アメリカ空軍によるビラの投下に
ついて書いてありました。

そのビラでは、「日本国民に告ぐ」と題し、
国民の敵はアメリカ軍ではなく、国民を戦争
に引込張り込んでいる軍部であり、軍部こそ
が真の倒すべき敵であると書いてありました。
アメリカ軍は軍部を倒すために、軍需工場や
軍事施設のある日本の都市も空爆すると予告
してあります。
そのビラの裏面には、今後空爆が予定され
ている十二都市が書かれてあり、富山・高岡
の地名もありました。アメリカ空軍は日本国

民に裏面記載の都市から非難するやうに警告
していません。

戦時中の日本では、「時局防空必携」により
勝手に想像したり、見聞きしたことで、軽
々しく書いたり話したりすることはデマのも
とになるとして、当局の情報以外のものを広
めることも戒めていました。

憲兵に、アメリカ空軍が投下したビラを拾
って渡す小学生ほどの子どもでも、不当な扱
いもおそれて口をつむぐやうな時代だ。たの

です。私たちが今、自由に発言することが許
される時代とは大きく異なっています。

当時の人たちはそのやうなビラを目にして、
どのやうに感じていたのだろうかと思いまし
た。もしアメリカ空軍のビラのような考え方
を持ち、日本の軍部に反対の気持ちを持って
いても、きつとそのやうな意見を口にすると
とは許されなかつたのではないかと思います。
自分自身だけではなく、自分の周りの人たち
をも巻き込む恐れがあるからです。

私は、今の自分たちが自由な意見を持ち、自由な発言が許されることは、本当はとも恵まれていたことなのだと感じました。

自由に意見を持ち発言が許される、様々な意見が許される社会はとも居心地の良い社会です。

私はその自由と大切にし、自分が持つ意見や発言に責任を持ち、大人になりたいと思いましたが。

この記事を読んで一番意外に思ったことは、日本の戦時中は考えられないような自由な考え、

「戦争を止めるような新指導者を樹てて平和を回復したらどうですか」

七十年前のアメリカでは、平和を求める思想があり、主権は国民なのだという考えがあることが、当時の日本とは大きく違っていたのだと思いました。